

ちいきのなかま通信

No.96



発行日：2023年8月8日

2023年度 盛夏

発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま

お元気にお過ごしですか？

「ちいきのなかま」は理事長の交代、新理事の就任を経て、新体制で活動しています。私たちは、子どもと子育て家庭を応援することを使命とし、子どもの幸せに貢献できる組織として、この秋以後はファミサポ事業選考会で継続して事業受託できること、さらに新事業の立上をめざします。一層の応援を、よろしくお願いいたします。

新理事長挨拶



5月の理事会にて承認をいただき、理事長に就任いたしました、山崎翠です。

ファミサポ依頼会員向けに職員募集のはがきを送られてきて、応募したことが縁で平成23年4月に入社してから12年以上お世話になってきました。入社当初は長男が1歳。よく熱を出し、しかも彼は「ここは休みたくない」という日を当てる能力を持っており、熱を出

理事長 山崎 翠 す…。仕事は休んではいけないモノ、と思い込んでいた私にとって「子どもの病気で仕事を休むこと」は当時の悩みの種でした。そんな私に“家族を一番に大切にしてください”と教えてくれたのがちいきのなかまの皆さんでした。加えて“もし恩を感じているのであれば私たちに返すのではなく、次の世代の子育て家庭に送ってね”というメッセージもいただき、今の私がいます。

何とか仕事に出てくるので精いっぱいスタートだった私が「事業を作る」という事を実感したのは、今年4年目を迎えた「産前産後家事サポート」に取り組んだことでした。新副理事長の助産師、濱脇さんより産前産後時期の支援の重要性を学び、情報を集め、事業化する覚悟を持って行動をすることによって、周りの流れもできていったように思います。また、事業化して間もなくコロナ禍となり、より必要とする方が増えました。コロナ禍のみでしたが、行政の補助があることでニーズは増え、現場の経験をたくさん踏ませていただきました。ファミサポ提供会員さんなどからご協力もいただき、私が中心となりつつも、多くの方の力があってこそ事業は出来上がり動いていくのだと実感することができました。

まだまだ私自身実感がないというのが正直なところですが、ひとつひとつ経験をしながら、女性がお母さんらしくなっていくように理事長らしくなっていきたいと思っています。

どうぞ皆様のご支援ご協力を、引き続きよろしくお願いいたします。



ご寄付に感謝。

目的別にご紹介します。

2022年度分の赤い羽根共同募金会、テーマ募金寄付者一覧(敬称略)

眞田 なつ美・吉田 文代・重松 日香里・花城 暢一・西原 博樹・徳田 直子・森山 忠良
株式会社ACT代表取締役 大宅 和子・品川 知通子・石田 裕・吉武 祥子・岩永 厚子
・岩本 聡美・松田 容子・三宅 正吾・平川 奈津美・岡 尚記・深江 陽子

※ このご寄付は産前産後家事サポート利用者補助に活用させていただきます。

NPO活動へのご寄付(敬称略)

医療法人TOGつきやま産婦人科 築山 尚史・鈴木浩之
守永 亮・佐々町ぶくぶくクラブ・守永 恵

※ 家事サポートに利用補助・事業補助として活用

みんなの実家montblea (天神5丁目40-30)

地域食堂等活動寄付 (敬称略)

吉田 文代・宮田 龍吉・本多 良一・木村 タツ子
岩崎 ムツ子・森山 美智子・坂本 浄



※皆様には食材・米・炊飯ジャー・圧力釜・暖房機などmontbleaで開催する地域食堂への応援をたくさんいただいています。

※地域食堂の活動は、山澄地区地域包括支援センター・佐世保市子ども未来部ほか関係団体や個人の皆様のご協力でご概ね1年継続して開催しています。



8月の

ぼちぼちいごか食堂は
週1回ランチ準備しています！

8/3・10・17・24・31

11:30~13:30

場所 みんなの実家 montblea
佐世保市天神5丁目40-30

参加費：無料

地域の皆さんでお待ちしております！

NPO法人 ちいきのなかま
問い合わせ・申し込み
090-9498-3608

みんさんだけで
も大丈夫！



天神地域での取り組みについて

「みんなの実家montblea」は、当初から次の展開につなげるために設置した拠点でした。名前の由来は、家の庭に咲くお花のひとつ「ヒメオウギズイセン：姫緋扇水仙」の別名で、響きの美しさから選びました。お庭は家主の岡さんのお手入れで四季折々のお花が咲きます。豊かな緑に包まれたmontbleaを舞台に、今地域の皆さんがドラマを創出してくださっています。8月は地域食堂を週一回開催する予定。また新たなドラマが生まれます。今後は地域の皆さんの活動のお隣で、法人が訪問看護事業を「間借り」して開始する予定。集う方々、お互いがお互いを知り、未来の子どもたちのために力を尽くせる場所になりますように、と思います。皆さんの応援を今後もよろしくお願いいたします。

退任のご挨拶

理事長という立場は、小さいウツワの私にとっては本当に重責でした。身の丈に合わない…なりに、だからこそ、皆さんに支えられて今日に至ります。みなさんと出会い、理解しあい、意見を交わし、現場を作り上げながら組織として前進することが出来たことは、なものにも代えがたい経験でした。充実した日々の中で、この数年間、私は一日も早い世代交代を願いました。この組織のイノベーションは私には起こせないと判断していたからです。継続可能な組織運営のためには仕事の幅を広げ、稼げる組織として未来を描くことが必要でした。子育て支援の現場の課題に向き合う中で、数年前から、産前産後ケアが重要だと考え、家事サポートに着手しました。この「小さな変革」は新たな代表である山崎さんの決意と提案によります。佐世保に限れば、山崎さんはこの分野のトップランナーです。まだまだ課題はたくさんあるのですが、だからこそ、今は次の展開…大きな変革を目指す時です。そんな折、これまで常に事業を支え、伴走してくれた濱脇文子さんが副理事長を担ってくれるというではありませんか。まさに未来へのチャンスだと思いました。

私は、言葉に出来ないほど皆さんに感謝しています。信頼できる人たちの中で働けることは幸せなことです。家族にも恵まれました。私自身は少し年を取りました。以前のような体力はなくなっています。これからは、大好きな仕事にマイペースで取り組みたいと思います。少しでもお役に立てれば幸せです。

守永 恵

7月25日付 長崎新聞に掲載していただきました…(^▽^)/

「自分の尊さに気付いて」

長野県出身。第1知的障害があり、自然と障害者支援の道を選び日本福祉大卒業後、障害者施設で働いた。1985年、結婚を機に夫の地元佐世保に転居した。見知らぬ土地での子育て。何が分からないかも分からない状態で孤立の自覚もなく、上手に育児ができていく自分を責めた。

長男が1歳になったころ、障害児の遊び場づくりに取り組み「おもちゃ図書館」のボランティアメンバーに。活動してみようと参加者の多くが健常児とその親だった。聞わろうちに親子が居場所を求めて足を運んでいることに気が付き、彼らと息が揃って息苦しさが増した。「子育てがしづらいのは自分のせいだと思っていたが、社会の問題なのかもしれない」。

80年代は、今以上に女性に育児の負担のしかかっていた。



佐世保の子育てや家族支援 守永 恵さん(62)

佐世保市花園町のファミリーサポートセンター佐世保の運営に携わるなど、30年以上子育て、家族支援に取り組んでいる守永恵さん(62)は、自身が立ち上げたNPO法人「ちいきのなま」の理事長を次の世代に譲った。地域に根差した支援活動を展開してきた守永さんに、佐世保の子育て環境のこ



「母親を含め、子育てに関わる人たちはもっと自分の尊さに気付いてほしい」と話す守永恵さん。佐世保市、ファミリーサポートセンター佐世保。

地域に根差し30年超 セーフティーネット 拡張に奮闘

女性の社会進出は進んでいたが、子育て中では就職も難しく、社会に取り残された感覚に陥った。先が見えない不安、やり場のない悔しさ。多くの母親にとって「息苦しく生きる」こと。「自分の親である」ことの内容は「コールドではなく、葛藤していた。90年ごろ、同じような問題意識を持つ仲間たちと「ファミリーまなま」を結成した。私たちがした苦労を次の世代に引き継いでほしい」とかきつづき活動の場をあげ、97年には第5期市女性企画懇話会のメンバーに。市でも発達センターの立ち上げにも関わり、2000年からは全職員士の子育て支援活動を推進する「ファミリーサポートセンター佐世保」の運営に携わっている。

センター設立から20年以上たったが、母親を取り巻く環境は「ますます過酷になっていく」と感じていた。地域との関わりが希薄で多様な人と関われない環境下での子育ては母親に過剰な負担がかかるが、自身もそのような環境で育つため「子育ては苦しい」と感じ、状況

理事長は5月に交代した。が、今後も事務局長として活動を支える。「社会で適切な評価を受けられないので、母親を含め子育てに関わる人たちの自己肯定感を低いが、子育てはどのも価値のある仕事。もっと自分の尊さに気付いてほしい」と結んだ。(堀内優子)

●これからのイベントや講座の予定●

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	8月21日・27日 13:30から	ボランティア センター別館	会員 ¥500 会員外 ¥800
ぼちぼちいこか食堂	8月毎週木曜日 10:00ごろから	みんなの実家モント ブレア	参加費無料 要事前申し込み
おもちゃ整理の日	8月22日(火) 9:00頃から	ファミサポ事務所	おもちゃの消毒・整理 協力歓迎!

編集後記

私の最初の上司は日々職員が書く日誌に、書かれたことに関連情報、時には間違いの訂正、共感などを赤い字で書きこんでくれた。障がい者施設でのこと。「えー！そんなのいやだ」と思う人は多いと思う、赤ペンだからね、子どもみたい。でも卒業後の初任者で何もかもが不安な時に、仕事をきちんと見て、助言していただける人の存在は有難く、安心して働けた。厳しい言葉にも温かさがあり、ときにはユーモアに笑顔になった。ちいきのなかま通信を書き始めたのもこの上司の影響だと思う。上司は90歳の今も「障がい者福祉」への思いを文字にして冊子や書籍を作り続けている。私はその文書に学び続けている。故郷に帰るように、上司の文章を読む。人に向き合う仕事をするうえで大切なことが、言葉になっている。私は、言葉と文字の力を信頼する。ちいきのなかまとしては今、以前のように文字情報を発信していない。文字に信頼を寄せる世代は今高齢化している、と思う。だから、時代の変化を見つめつつ、これからについて考えようと思う。みなさんはどんな風に思いますか？ 守永

NPO法人ちいきのなかま



入会・会員（正・賛助）

正会員：総会議決権あり 入会金 ¥1,000 年会費 ¥6,000

賛助会員：総会議決権なし 年会費 ¥3,000

主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先 NPO法人ちいきのなかま

携帯 090-9498-3608

E-mail: chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp

HP: <http://chiikinonakama.boj.jp/>